

研究から起業へ 学術の知見をビジネスに活かす

山崎 進 編

アジェンダ

- 自己紹介
- どんなことをビジネスにするの？
- やってよかったこと, 大変だったこと
- Q&Aセッション

自己紹介

- 所属: 北九州市立大学 国際環境工学部
 - 新学部を作ります！情報イノベーション学部
- 出身地: 東京
- 年齢: 51歳
- 趣味: 仕事w



キャリアの出発点が産学連携を
ミッションとした研究員だった

言葉の説明

ベンチャー
vs スタートアップ

ベンチャー≒新興中小企業
vs スタートアップ≒急成長して大企業になる
宿命を負う新興企業

どんなことを
ビジネスにするの？

NewSpaceって

聞いたことありますか？

8/31(木) 14:00～15:20 セッションkeynote

NewSpace時代の民間宇宙ロケット・衛星に求められる組み込み技術



講師

森岡 澄夫

インターステラテクノロジズ株式会社 シニアフェロー <https://www.istellartech.com/>

ここ10年ほどでNewSpaceと呼ばれる民間主導の宇宙開発が世界で活発化し、ロケットや小型衛星コンステレーション（多数の衛星による協調ミッション）の開発が商用目的で行われている。開発手法の点でも、ある程度の失敗を許容しコストや開発スピードを重視するアジャイル手法が取り入れられるようになってきた。商用ベースでの宇宙機開発を行えるようになった理由の一つが、プロセッサやセンサなどの電子部品と利用ソフトウェアの高性能化・高信頼化・低価格化であり、民生品活用（Space-COTS）は現在の宇宙開発の技術トレンドとなっている。

本講演では、民間宇宙機のアビオニクス（電子情報系）に現在使われている、あるいはこれから必要となってくる部品や設計技術を、組み込み技術の視点から紹介する。

実行委員からの推薦文：

宇宙開発といえば一国の威信をかけた大規模で機密性の高い分野でしたが、近年民間での宇宙開発が広がりつつあります。

本セッションでは、インターステラテクノロジズ株式会社 森岡 澄夫様に民主化が進んだ宇宙開発で使われている組み込みシステムの技術やトレンドを解説頂きます。ロケットも衛星も制御しているのは組み込みシステムです。遙か宇宙に想いを馳せながら組み込みシステムについて議論しましょ

急成長する宇宙ビジネス

宇宙世界市場

2030年1兆ドル産業

うちエッジ・コンピューティング

18億ドル以上

CAGR22.64%

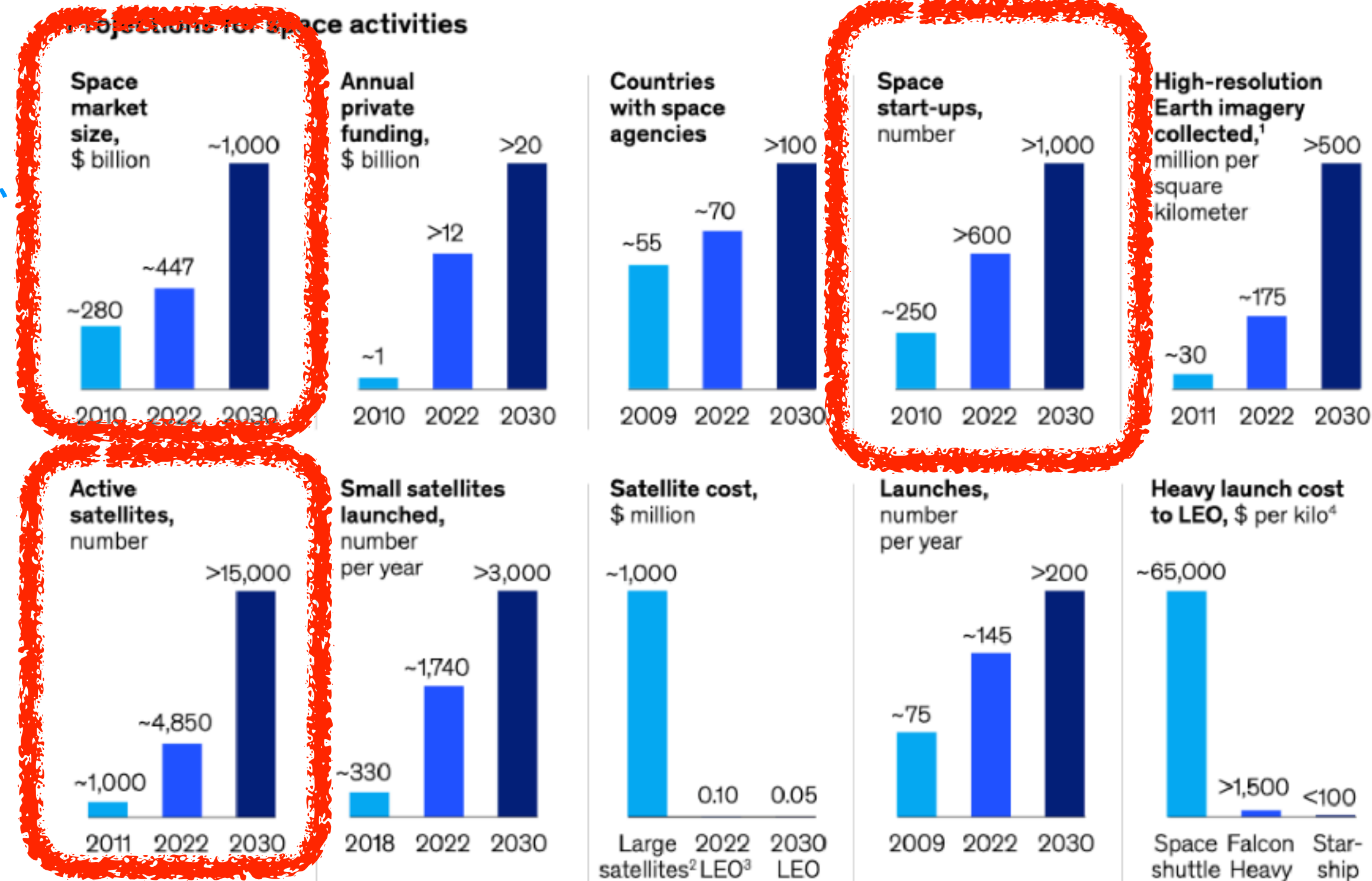
アクティブな

衛星の数

2030年

15,000以上

The space sector has come a long way and seems poised for future growth.



宇宙スタートアップ

企業数

2030年

1,000社以上

© McKinsey & Company

衛星だけでなく、今後は月面資源探査・開発も宇宙科学からビジネスに

写真の解説

- キッズニア福岡「おとなのキッズニア」
- マニュアルに沿って宇宙飛行士に指令



宇宙 x 半導体

「2大」金かかる分野

スタートアップしか
解がない

起業 vs 事業化

既存スタートアップ企業への 技術移転を主軸へ

事業化ができるのであれば
手段は何でもよかった

やっつてよかったこと

能力と人脈と情熱の限りを
を尽くして挑戦すること

大変だったこと

今のところまだ
正直あまり大変だと思っていない

面倒臭いことは多い

“大事なことは、たいてい、面倒臭い”

—宮崎 駿

あと私の場合は研究業績を
大して積みめなかった

ただ世界的な研究をして、
かつ起業をしている人はいる